

## 第3回学校運営協議会 報告

### (1) 校長あいさつ

今年度の取組を振り返り、評価していただき、来年度につなげていくための有意義な会にしたい等の冒頭あいさつ。

### (2) 議事 進行:山元 薫 様(協議会会長)

#### ア 今年度のまとめと次年度の方向 (教頭)

##### ① 令和5年度 学校評価について

今年度の取組をパワーポイントと資料を使って説明。また、教職員評価、保護者評価、生徒の生活アンケート、学校自己評価委員会を基に自己評価についても報告を行う。

その後、具体的な学部の取組についても(部主事)報告を行う。5G の項目に沿って取組と振り返り、また今年度、研究指定事業である学校図書館活性化研究『WBC』の報告動画を視聴していただく。



#### 【学校評価の説明をうけて、委員の皆様からのご意見】○:委員

○安全、防災、災害といった点では、製氷機の購入は、夏の時期に熱中症に気づかない生徒もいることを考えると良い取り組みである。また富士宮地域では、富士山の噴火や火災といったことで、どのようなことができるのか？実例をもとに、訓練だけではなく直近の事例を参考に生徒が考える機会を与えることが大切ではないか。

○よく練れている。課題もよく見られている。SDGsについては広げていくことは大変。現在の「宮コロ」の取組を継続していくこと、広げて、できなくなっていくよりも良い。地域とのつながりでは、いろんな刺激、外の刺激が社会に出たときに役に立つ。

○防災に関して、自助はできているが、共助が難しい。誰かが助けてくれるわけではない。この視点が大切である。誰もができるシステムを訓練の中で知ってもらう。本に親しむことで生徒はどんなジャンルが好きなのか？

○作品をいろんなところで目にする。個性を生かす表現として発信できている。学校生活の取組とSDGsの項目を整理することで、意識化につながる。

○防災について、被災後の生活、復興に向けた中でできる取組(ケアされる側、ケアする側)等災害学習として広く学ぶ。経験談や映像等から自分たちに何ができるのか地域に何ができるのか、防災イメージを持って取り組むことが大切である。

○研修について、本とのふれあい(親しむ)をとおして、自分をどのように語れるか？が大切で、そのことがレジリエンスや自己肯定感を高めることにもつながる。いろいろな体験の中で「楽しかった」「できた」だけだと心が折れやすい。振り返り等を確実に言い、省察できる力、内言語をもつこと増やすことそういうことで自己コントロール、自己理解、レジリエンスを高めることにつながる。

##### ② コンプライアンスについて (教頭)

今年度の不祥事根絶に向けての取組について

##### ③ 次年度の学校経営について (教頭)

令和6年度の富士宮分校学校経営 方向性の提示 (特に、重点目標についての説明)

【学校評価の説明をうけて、委員の皆様からのご意見】 ○:委員

○読書サポーターを連絡して活用してほしい。大型絵本の読み方や本の入れ替え等ボランティアとして話はおっている。

○主権者教育として、選挙で投票時「枠の中に書く」「立ち合いの人に見せる」等、今後選挙権を得る生徒達への指導も必要ではないか。また、防災教育では、ケガや骨折をしたときの対応として、三角巾の使い方、包帯の巻き方、消火の方法など身近にできることを自分たちで対応できるように。

○経営計画としてよくできている。分校ということを忘れるくらいの内容。生徒や先生は大変ではないか？体罰やハラスメントの難しさはある。生徒へのアプローチの仕方やラインの明確化を考える。

○コンプライアンスについて、起こさせない場をつくること。学ぶ場、共感する場、教育する場、体験する場の設定、状況づくり『場づくり』

○評価に対して、正直に真摯に情報を提供している。信頼性が高い。不祥事については、いろいろと重なったときに起こりえる。踏み越えてしまう。当たり前に分かってはいるが越えてしまうのが課題。現在の取組の中、月例別テーマでの話し合いの中に職員が、弱音、不満、助けてほしいがはける場、力を抜ける場、柔軟性が必要。

【休憩】 【校内参観】

高等部 1 年生が職場実習中 2 年生(幼稚園児との交流活動) 3 年生(キャリアパスポートの活用)の授業を参観。



2 年生授業の様子(園児とのふれあい)



3 年生の授業の様子(キャリアデザインの発表)

イ 協議 『分校をさらに良くするために』~それぞれの立場からの御意見や御感想を伺うことができた~  
地域とのつながり/保護者とのつながり/進路先とのつながりといった視点

【委員の皆様からの御意見や御感想】

○:委員 学:学校側意見

○学校からのおたより等の情報が確実になる手段方法がほしい。

学:コクーを活用しての情報提供等ができる。

○企業サイドからすると、配布物等が提出できないとマイナス。提出物は教育としてのツールになる。

○防災関係で地域とのつながり 日曜日といった休日の催しが多い。この地域だと三世代交流事業がある。案内等は紹介できる。

学:防災について、地域の方と一緒に活動できる、教えてもらう機会をもちたい。

○交通事故が心配。狭い道路や信号無視、ルール遵守やヘルメットの着用の重要性。

学:交通安全教室だけではなく、日常生活の中で、ルールやマナーの指導をしていく。



○進路とのつながり 保護者はどれくらいの企業、進路先があるのかわからない。企業と保護者のつながり。選択肢が狭いため、「今回を逃すと」といった解釈になってしまう。自分にマッチするところが長く続けられるにつながる。

○意思決定 人とぶつかったときにどうするのか？困り感。そうした中で、社会とつながっていくにはどう乗り越えていくか、自分で判断する力が大切。合理的配慮、社会に出ていくときに大事であり、権利である。教育としてどのように教えていくか。提出物や忘れ物等、能力としてできないのか？学ぶ機会がなかったのか？基本的な力を身につけることが大事。どうすればできるのか？自立について学ぶ、もう一度見直す。大人の当たり前前を身につける。

○進路決定 保護者は自分で決めてほしい。本人は、企業、保護者、学校と相談して決めていきたい。最終的には自己決定だが、生徒本人は「寄り添ってほしい」と考えている。ここぞっというときに、大人の力が。



学:主体的・主体性 意図的な体験、言葉だけではない体験をとおして、振り返り(言葉で返す)を行い、自主性が高まる。また、生徒からの意図的な場づくりができれば社会に出たとき生きてくる。

○授業(高3)参観を経て 感動した。自分のこととして落とし込んでいる。促しができていて、教育効果あり。

○生徒の発表の様子から どんな支えが必要なのか？ 言ってくれないとわからない(これも大事)、悩んで決めた等、知りたい仲間がたくさんいる。情報の取り扱いが難しいが、中学生等へ共有が大事。

○PTA進路講話 企業、先生、保護者で座談会もあり。

学:3年間の振り返り 保護者にも知ってもらいたい。こういう風に成長してきたという姿を。

○どのように分校での3年間を過ごす カリキュラムベースで理解する必要がある。個別の指導計画、スタディプランとして自分たちで計画できるとよい。自分が必要なことをどうやって学んでいくか？

○企業サイドが求めていること 自発的に相談する(できる)力があることで、小さなトラブルのときに解決ができる。コミュニケーション力 特に挨拶は、生きていく中で必要なこと、基本的なこと。すべて順調に進むわけではないため、つまづいたときに、どうサポートしたのか(対応)情報が欲しい。サポート体制、また職員の入れ替わりを考えたデータベース化、マイナスな情報がプラスになる、扱い方。

○地域との防災(かかわり) 地域では自助だけでも2年かかる。今後は共助に向けてひとつひとつやっていく。実際にけがをした人、血が出ている人を目の前にしたときにどうなるのか？そういった対応、一人一人に違った対応、指導が大切である。子ども(生徒)は1年1年成長していくように、親もステップアップ、もちろん職員も一緒に成長していくことが大事。

○企業、保護者参加型の懇談会等、設定があると嬉しい。十人十色、保護者も同じ。分校を良くしていくように 自分自身もさらに良くしていく。

### (3) 閉会のあいさつ

一年間の取組や次年度に向けて、富士宮分校をより良い分校にするため、いろいろな角度でたくさんの意見をいただきました。これも「主体的に社会で生きる」に集約される。

表現方法や言葉・単語等で正確ではないところ、発言内容を一部解釈し、変換した表現になっている部分もあります。御理解御了承いただきますようお願い申し上げます。